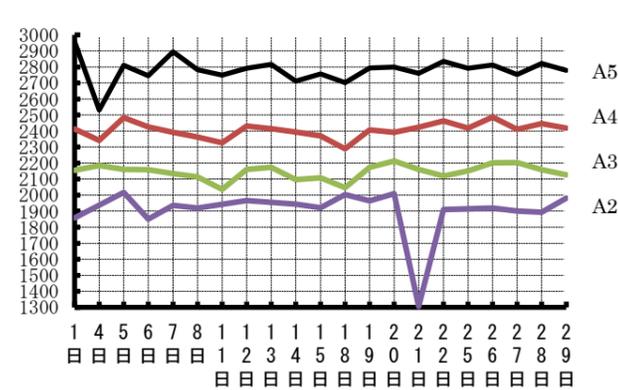


### 大動物事業部

#### <6月の相場動向>

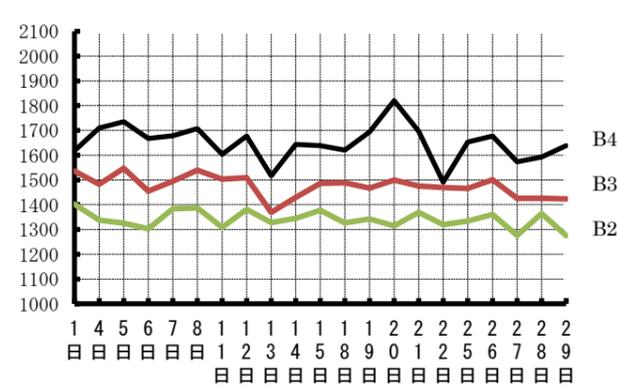
和牛去勢 A5 が前月比 32 円高の 2,801 円（前年同月比 17 円安）、A4 が 19 円安の 2,408 円（同 78 円安）、A3 が 2 円安の 2,145 円（同 39 円安）、A2 が 112 円安の 1,864 円（同 67 円安）となった。交雑牛去勢は B4 が 41 円安の 1,655 円（同 58 円安）、B3 が 43 円安の 1,483 円（同 13 円高）、B2 が 19 円安の 1,344 円（同 194 円高）となり、出荷頭数が少ない中で、梅雨入りの影響や末端需要の鈍い状況などから、和牛は前月のもちあい。交雑牛は前月から引き続き乳牛去勢牛の品薄な状況などで、代替え需要としてスソ物を中心に堅調な相場となっている。

和牛去勢 日別相場表（6月）



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,801 円	99.4%	101.2%
A4 2,408 円	96.9%	99.2%
A3 2,145 円	98.2%	99.9%
A2 1,864 円	96.5%	95.2%

交雑去勢 日別相場表（6月）



交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,655 円	96.6%	97.6%
B3 1,483 円	100.9%	97.2%
B2 1,344 円	116.9%	98.6%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし	-	-
B2 1,051 円	114.9%	98.6%

#### <7月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの個体識別情報による 18 年 5 月末現在の全国飼養頭数は前年同月比 0.3%増の 384 万 8,736 頭となり、頭数では 1 万 1,007 頭増加。17 年 3 月から 15 ヶ月連続で前年を上回っている。和牛に至っては、17 年 8 月以降 2%台での増加が続いており 160 万頭台を維持している。農水省統計部が発表した 5 月の食肉流通統計による全国の牛と畜頭数は、前年比 3.0%増の 8 万 2,627 頭となり、前月から 8.2%、平年比で 3.7%とそれぞれ落ち込んだが、昨対比では 8 ヶ月連続で増加基調にある。和牛と交雑牛は昨対増、乳牛去勢は昨対減という構図が続いている。

7 月の出荷予測頭数は、前年比 0.4%増の 9 万 800 頭と予測している。品種別にみると和牛は 0.9%増の 4 万 600 頭、交雑種は 0.6%減の 2 万 500 頭、乳用種は 0.8%増の 2 万 8,400 頭としている。東京食肉市場の 7 月のと畜頭数は 8,000 頭を予定しています。

#### <7月の牛枝肉相場見通し>

関東甲信地方は、記録的な早い梅雨明けとなったが、全国的には猛暑と梅雨のはざまの中で、末端消費は鈍い状況は変わらず、また中旬以降夏休みの行楽需要や後半には旧盆商戦に向けた手当て買いなどで相場が上向き期待感が増すところではあるが、それらの需要を見越した短期的な相場の強気配を見込まれるものの、相場は横ばいで推移か。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,750~2,850	B4	1,600~1,700
A4	2,400~2,500	B3	1,400~1,500
A3	2,100~2,200	B2	1,300~1,400
A2	1,850~1,950		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,100		

#### <7月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した貿易統計による 5 月の輸入牛肉通関実績によると、前年同月比 4.1%減の 5 万 4,139t となった。チルドは 10.2%増の 2 万 4,915t で、不要期の中で 4 月並みの数量が入り、5 月後半からの相場の緩みにつながった。豪州・米産ともに外貨高により数量は絞られると見られたものの、結果的には前年を上回る量となった。一方、フローズンは 13.6%減の 2 万 9,224t となり、SG明けの 4 月に比べ 8,000 t 近く減少して 3 万 t 弱となり、6 月についても必要数量のみの通関に限っているため、SG回避はほぼ間違いないと見込まれる。

農畜産業振興機構の予測による 7 月の牛肉輸入数量は、前年比 7.3%減の 5 万 2,200t と予測。チルドは、前年同月比 0.2%減の 2 万 2,000t。一方、フローズンは、11.9%減の 3 万 300 t で前年同月と比べて米産の減少がかなり大きく下回ると予測している。

輸入牛肉通関量	5月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	11,516	10,596	108.7%
	米国	11,989	11,138	107.6%
	その他	1,410	866	162.8%
	合計	24,915	22,600	110.2%
フローズン	豪州	17,127	17,998	95.2%
	米国	8,894	11,080	80.3%
	その他	3,203	4,759	67.3%
	合計	29,224	33,837	86.4%

単位：t

出典：食肉速報

### 小動物事業部

農畜産業振興機構によると 4 月の豚肉需給動向によると、推定出回り量は、国産品 7 万 7,128 t（同 108.4%）、輸入品 8 万 1,431 t（同 100.1%）、合計で 15 万 8,599 t（同 104%）と前年同月を上回った。これにより、推定期末在庫は国産品 1 万 8,753 t（同 111.2%）、輸入品 15 万 9,213 t（同 101.3%）、合計 17 万 7,966 t（同 102.3%）と増加した。

5 月の全国と畜頭数は前年同月比 1.5%増の 138 万 561 頭と前年より増加した。同月の豚肉通関実績は、総量で 8 万 314 t（105.2%）と同じく前年同月から増加した。チルドは 3 万 3,725 t（同 119.9%）と増加。内訳は、米国が 1 万 7,156 t（同 111.3%）、カナダは 1 万 5,556 t（同 132.1%）、メキシコが 1,010 t（同 106.8%）と増加した。一方、フローズンは 4 万 6,589 t（同 96.7%）と減少し、内訳は、デンマークが 9,544 t（同 92.1%）、スペインが 1 万 359 t（同 106.6%）、メキシコが 6,237 t（同 105.4%）、米国が 4,650 t（同 89.5%）、カナダが 3,601 t（同 75.9%）となった。

#### <6月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	58,100	679	673	755
4 日	56,600	690	670	542
5 日	64,400	690	661	675
6 日	57,700	687	666	607
7 日	65,000	673	643	736
8 日	59,600	594	570	898

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 233 頭。当市場は平均 702 頭。

6 月に入り全国と畜頭数が 6 万頭を下回る日もあり品薄感から 600 円台後半の上相場が続いた。末端消費は、鈍い状況にあり、ロース、バラの荷動きが鈍い状況。また、カタロース、ウデは荷動きが良化している。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11 日	62,000	576	540	652
12 日	64,800	531	502	870
13 日	57,100	555	527	767
14 日	63,300	540	510	650
15 日	59,900	542	531	768
18 日	61,500	564	557	589
19 日	60,900	564	554	755
20 日	54,400	571	539	660

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 487 頭。当市場は平均 714 頭。

全国と畜頭数は 6 万頭前後で推移しており、決して多くはないがこの時期としては例年並みの展開だ。梅雨入りしたことにより末端消費は鈍く、荷動きは悪い状況が続いた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21 日	62,500	550	534	562
22 日	60,600	576	555	862
25 日	62,200	562	538	776
26 日	62,400	574	557	861
27 日	60,200	559	536	673
28 日	62,400	566	540	529
29 日	60,300	570	556	892

下旬の全国と畜頭数は平均 1 日あたり 6 万 1,514 頭。当市場は平均 736 頭。

全国頭数は 6 万頭台前半で推移しており、相場は 500 円台後半で持ち合いとなった。

部分肉冷蔵品は全体的に荷動きが鈍く、ヒレ、肩ロースは比較的動いたが、ロース、バラは弱く凍結回しになるケースもあった。冷凍品もバラ、スソ物は動きが悪く、在庫が多い状況。また、中元ギフトへの駆け込み需要も例年以上に鈍かったようだ。

#### <7月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による 7 月の全国と畜頭数予測では、126 万頭（前年同月比 102%）、一日当たりの頭数は約 6 万頭（21 日稼働）と見込んでいる。

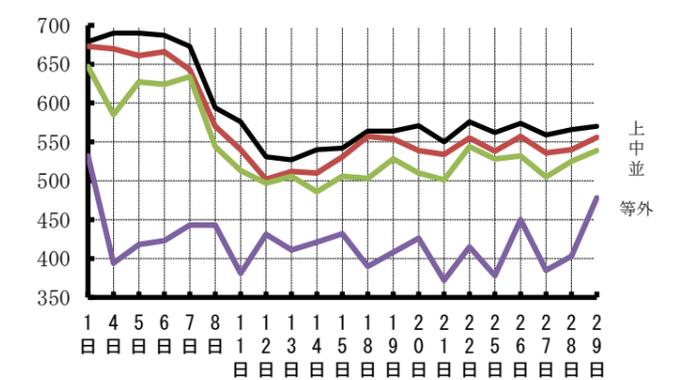
当市場の 6 月の集荷予定頭数は 1 万 5,500 頭となっており、一日当たりでは約 738 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると 6 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 5,500 t（前年同月比 101.4%）の予測となっている。内訳はチルドが 3 万 2,500 t（同 107.7%）、フローズンは 4 万 3,000 t（同 97.1%）の予測である。

7 月下旬には夏休みに入り学校給食の中断などでスソ物の引き合いが弱まる反面、行楽需要の増加によって、ロースなどの引き合いが強くなりそう。今年は例年より梅雨明けが早かったため、今後の消費回復に期待がかかる。また、出荷頭数が前年同月をやや上回ると見込まれることから、生産量も上回ると予測する。

以上のことから当市場の上物平均価格は 570 円前後、中物平均 550 円前後と予測する。

豚 日別相場表（6月）



#### 出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

**東京都港区港南2-7-19**

**東京食肉市場株式会社**

**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**

**URL <http://www.tmmc.co.jp/>**